

名 称	令和7年度 第2回 松山圏域活性化戦略会議（書面開催）
開催日時	令和7年11月21日(月)送付
開催場所	－（書面開催）
出席者	－（書面開催）
議事内容	<p>1. 第3期まつやま圏域未来共創ビジョン（案）について</p> <p>2. 第3期まつやま圏域未来共創ビジョン本編（案）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 次期ビジョンの概要及び本編（案）を事務局から報告した。 ⇒会員から意見あり。 ※意見内容とその対応については、別紙を参照。

■松山圏域活性化戦略会議(第2回) 意見対応表

別紙

NO	意見内容	対応
1	<p>・全体的に総花的な施策となっている印象がある。圏域として動くため仕方ない部分もあるかもしれないが、何かしら特化すべき施策を定めていく必要があると思われる。また、役割分担の考え方については、各施策の担当業務・役割と意思決定ルールを明確にした上で展開すると、連携が加速するものと思料する。</p>	<p>・圏域ビジョンの性質上、「経済成長のけん引」「高次都市機能の集積・強化」「生活関連機能サービスの向上」に関する施策を明示しております。住民アンケートで洗い出した分野のほか、実行の上では優先順位をもって施策を進めてまいります。個別の施策については、各市町と密に連携しながら進めていきます。</p>
2	<p>(第1回会議での提出意見を再掲) ・現行ビジョンの指標である「商談会における松山圏域企業の商談件数」では、令和6年度実績値が令和元年度実績値を大きく上回っているが、目標には未達となっており、更なる取組が期待される。 ・上記課題に対して、圏域内連携を活かした新商品の開発や付加価値の向上等、販路拡大につながる取組を実施してほしい。</p>	<p>・今後も目標達成に向けて、取組を検討・実施していきます。 ・「中小企業の振興や地場産業の活性化(111)」や「観光資源を対象としたプロモーションやファムツアーの実施(132)」などの取組の中で、圏域商品の開発や販路拡大を引き続き検討していきます。</p>
3	<p>二次救急病院は慢性的な医師・看護師・事務員等の医療従事者不足に悩まされ、人件費をはじめとする経費の高騰で経営が非常に厳しい中、なんとか救急医療体制を維持しているというのが実態である。人口減少が進む中、医療需要はほとんど減少しないと予想されており、医療従事者不足は今後より深刻化する。24時間365日の救急医療提供体制の維持がどれほど大変かということをもっと深刻に考えていただきたい。</p>	<p>・24時間365日の救急医療体制を今後も維持していくため、現場の実情や課題を正確に認識し、必要な対応に注力してまいります。</p>
4	<p>第3期まつやま圏域未来共創ビジョン本編(案)のP47「松山圏域に望む将来の姿」で医療施設の充実が上位に入っている。特に小児科・産婦人科が少なくなっており、人口減少を少しでも軽減するためには、安心して出産ができ、子供が病気をしても安心できる医療提供体制の確保が必要。 また、看護師不足により医療施設の運営に支障をきたす事態が発生しており、生徒確保に対する支援等の看護師養成所に対する更なる補助が必要。 これらのことを踏まえ「小児科・産婦人科の開業支援」「看護師養成の支援」を新たな取組として追加していただきたい。</p>	<p>・各市町独自で行っている小児科医の確保・看護師養成の支援などを参考に、2期からの継続取組である「救急医療提供体制の維持」の中で、松山圏域として引き続き協議してまいります。</p>